

太田川の治水 ～総合内水対策～

太田川下流部においては、堤防整備の進捗とともに沿川の宅地開発による市街化が進行しています。過去、内水はん濫被害が発生した地域では、排水ポンプ場の整備が行われてきましたが、近年内水はん濫による被害が再び発生しています。

太田川の支川矢口川流域では、平成17年9月洪水、平成22年7月洪水により内水はん濫による家屋の床上浸水被害が発生しました。

矢口川における主要な内水はん濫被害の一覧

洪水発生年月（発生原因）	被害状況
昭和47年7月洪水（梅雨前線）	・支川矢口川流域 浸水面積：約2ha
平成17年9月洪水（台風14号）	・支川矢口川流域 浸水面積：約3ha
平成22年7月洪水（梅雨前線）	・支川矢口川流域 浸水面積：約4ha

平成22年7月の浸水状況

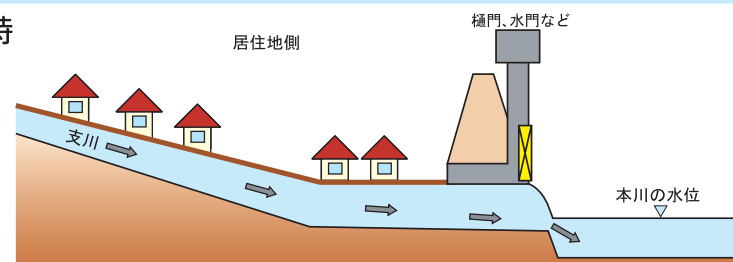


このため、内水はん濫による家屋の床上浸水被害の防止を目的に、平成23年8月に国、広島県、広島市により「矢口川総合内水対策協議会」を設立し、河川管理者と地方公共団体が協力して、排水機場、河川改修、調整池等のハード対策や、的確な情報提供体制の確立等のソフト対策、土地利用に関するルールづくり等を重層的に組み合わせ、総合的な内水対策を推進していくこととしています。

●内水はん濫とは…

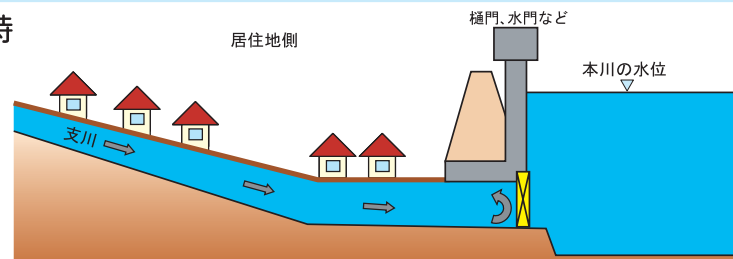
市街地に降った雨や支川の水は、通常であれば本川（大きな川）へと排水されますが、本川の水位が上昇して排水できなくなったりすると、居住地側の水はけが悪くなって建物や土地、道路などが水につかってしまいます。この現象を内水はん濫といいます。

① 平常時



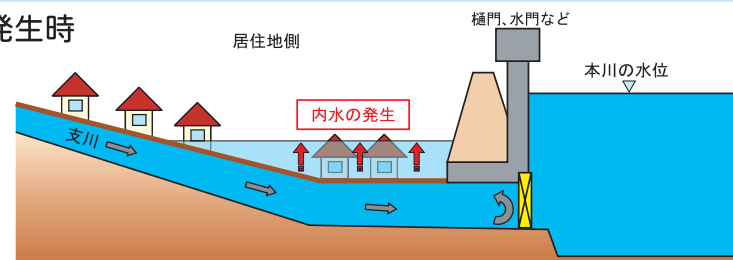
平常時は本川水位が低いため、スムーズに排水されます。

② 洪水時



洪水時には本川水位が上昇し、本川水位が支川水位を上回ると逆流現象が起こるため、樋門や水門のゲートを閉め、逆流を防止します。

③ 内水発生時



本川の水位が下がらないと支川の流水が排出できないため、樋門、水門付近で支川からあふれ出します。この現象を「内水はん濫」といいます。